

薄板ガラスの技術を活かして 医療から電子分野へ拡大

松浪硝子工業株式会社

大阪
21

ISO 9001

ISO 14001

<http://www.matsunami-glass.co.jp/>

電子関連製品

Company Profile

松浪硝子工業株式会社

住 所／〒596-0049
岸和田市八阪町2-1-10
創 業／弘化元(1844)年
設 立／昭和23年12月
資本金／9,000万円
従業員／250名
T E L／072-422-4545
F A X／072-436-2265

■主な事業内容

顕微鏡用カバーガラス、スライドガラス、医療理化学用ガラス、病理・細胞診検査業務支援システム、ディスプレイ用基板ガラス、一般電子工業用ガラス、光学部品用精密加工ガラスの製造・販売、精密蒸着・コート処理 等

■主な取引先

医療理化学機器メーカー、医療理化学機器販売会社、電子部品メーカー、タッチパネルメーカー、ディスプレイメーカー 等

当社のセールスポイント

ファインガラスの総合メーカーとして、大阪の地でものづくりを続けます。



取締役社長
松浪 明さん

当社はガラスの精密技術というハードを提供するだけでなく、ライフサイエンス分野に於いては、お客様の課題解決を図るための様々なソフト開発も手掛けており、顧客満足度の向上をめざしています。ファインガラスの総合メーカーとして、社会に貢献するべく、この大阪の地で国内生産を継続しながら世界と競争できる力を養って行きたいと考えています。



臨床検査用スライドガラス

医療用ガラス 製品のトップメーカー

弘化元年(1844)創業の松浪硝子工業。そのものづくりの歴史は合わせ鏡から始まる。明治37年には日本で初めて顕微鏡用カバーガラスを製造。以後、臨床検査用ガラス製品を中心に幅広い製品へ及び、同社の医療用ガラスの国内シェアは現在約60%を占めている。

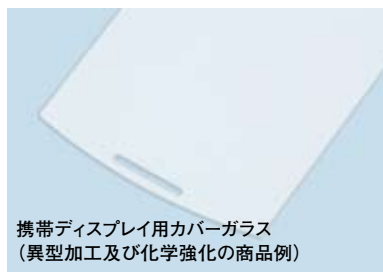
そのコアにあるのは、極めて薄く高品質のガラスを製造できる技術力だ。最近の臨床検査の現場では、ロボットによる自動化が進んだため、カバーガラスに薄さと清浄度だけでなく、強さと弾力性も求められるようになった。同社の「NEOカバーガラス」はガラスの切断技術を追及し、一般的なカバーガラスよりも約2倍の耐久性を確保している。同社の製品は医療の進展に合わせて多様化・高付加価値化の道も歩んできた。近年はとくにがんの早期発見・早期治療を目的とした免疫染色のニーズが拡大。「剥離防止

電子分野で活かされる 薄板ガラスの技術

スライドガラス」はガラス表面に施された特殊なコートによって、組織切片の剥離を防ぐもので、乳がん検診などに採用されている。「印刷用スライドガラス」はガラス表面に検査用の特殊な印刷がされており、各病院のオーダーメイドにも応じられる。これらのほか、同社では病理検査の現場に精通した知識と商品開発力を活かして、ガラス以外の臨床検査用品も数多く商品化。最近では病院の病理・細胞診検査業務を支援するアプリケーションソフト「パスウインドウ」も開発している。

同社の薄板ガラス製品は電子製品の素材としても広く利用されている。この分野への参入は昭和48年。当時は1mm以下の薄板ガラスの少量生産技術を持つ企業が同社しかなく、電子部品メーカーからの試作品受注をきっかけに製品開発の道に入った。同社の技術力の結晶のひとつで

ある極薄板ガラスは、最薄タイプが30ミクロン。とてもガラスとは思えない薄さと弾力性を持つ。その品質を活かして、大型フラットパネルディスプレイ用絶縁膜、FED用スベラーなどに使用されている。そのほか、レーザーダイオード用やイメージセンサー用のカバーガラス、各種のフィルターガラスなども製造する。同社は創業165年の歴史を重ねるなかで、トップメーカーにふさわしい製品を揃える医療部門と、受注生産形態の電子部門の大きな両翼を備えてきた。今後とも薄板ガラス技術の多様なチャレンジを続けるなかで、企業体質を強化し、「200年企業」への道のりをたしかなものとしていく。



携帯ディスプレイ用カバーガラス
(異型加工及び化学強化の商品例)